

富士山とともに生きるまち 富士吉田市

富士吉田市長（山梨県）

堀内

茂



富士吉田市の紹介

富士吉田市は山梨県の南東部、富士山の北麓に位置し、市内の至る所から富士山が望めるため、古くから富士山を信仰する人々でに



日本を代表する絶景「新倉山浅間公園」

ぎわい、平成25年に富士山が世界文化遺産に登録されて以降は、さらに多くの観光客を迎え入れるおもてなしのまちである。最近では、富士山と五重塔、桜を一望できる「新倉山浅間公園」がSNSで話題となり、ミシュラン・グリーンガイドの表紙にも採用されている。また、本市を含む富士北麓地域で作られる絹織物は質が高く、本市は、織物のまちでもある。海抜750mに市街地を形成する本市は、冷涼な気候で、稲作に適さない土壌であったことから、それを補うために人々は機織りを始め、やがて「郡内織物」・「甲斐絹」と呼ばれる高級織物が知られるようになった。その後、大正時代に織機が電力化されると、この地域の織

維産業は大いに発展した。なお、本市のうどんは太く、非常にコシのあることで有名であるが、これは女性が機織り・養蚕を担っていたことから、代わりに男性が食事としてうどんを作り、麺を打つ際、力任せに粉を練ったためで、本市の織維産業の隆盛は、名物「吉田のうどん」を生むきっかけにもなっている。

富士山吉田口登山道

恵みを与えると同時に、噴火を繰り返し、自然災害をもたらす存在として人々に畏怖されてきた富士山は古来より信仰の対象とされ、日本の各地域では、広く富士山に対する信仰を行うための講社「富士講」が組



富士吉田市から富士山頂へ続く「富士山吉田口登山道」

織された。「富士講」は特に江戸時代に爆発的な広がりを見せ、「江戸は広くて八百八町、講は多くて八百八講。江戸の旗本八万騎、江戸の講中八万人」と称されるほどで、多くの方々が富士山頂を目指し、かつての本市を訪れた。こうした人々に自らの住宅を宿坊として提供し、登山のお世話をしていたのが「御師」と呼ばれる方々である。最盛期には80軒以上もの御師住宅が本市の上吉田地区に立ち並



日本橋から富士山へ「富士まで歩く講」出発式

んでいたと言われており、現在もその面影が色濃く残っている。長い時が経った今でも、富士登山は絶大な人気を誇っており、麓から富士山頂まで登れる唯一の登山道である「富士山吉田口登山道」は、富士山の開山期間（7月1日～9月10日）だけでも、毎年およそ20万人もの登山客でにぎわう。

この「富士山吉田口登山道」は、世界文化遺産富士山の構成資産にもなっており、同じく構成資産である「北口本宮富士浅間神社」内にある登山門をその起点とし、道沿

いには、信仰の山である富士山を感じることで数々の史跡を今に残し、富士山頂へと続いていく。

富士山吉田口登山道を活用した事業の取り組み

近代以降、交通網の発達や整備によって、富士山へ足を運ぶことが容易になった。それと連動するように、富士登山に対する考え方も変化し、信仰・修行を目的とした麓からの登山に代わり、観光やスポーツ等を目的とした五合目からの登山が主流となっている。五合目への来訪者が増加する一方で、世界文化遺産としての魅力を感じることができず麓からの登山道を利用する登山者が、近年極めて少なくなっていることを私どもは危惧している。

そこで本市では、世界文化遺産としての富士山と、富士山とともに育んだ歴史、文化を後世に引き継ぐための事業に取り組んでいる。特に、吉田口登山道の歴史的価値や環境保全についての周知を目的とする「歩こっ！富士山」事業に力を入れている。この事業では、かつて富士講の方々が歩いたとき

れるルートを同じように辿る「御山参詣～富士まで歩く講」や、麓からの登山を推奨するために、麓から登山し登頂した方へ「富士山登山認定書」の発行などを実施しており、富士登山の歴史や自然を体験できるコンテンツを盛り込んでいる。また、富士山をただ登るのではなく、本市と富士講との関わりや、麓から五合目までの登山道の歴史を知ることができる音声ガイドアプリ「ON THE TRIP」

を導入し、五感全てで富士登山を満喫できるように工夫した。こうした取り組みにより、平成20年頃には2000人程度だった麓からの登山者は、現在ようやく1万人を超えるまでに回復したが、まだまだ道半ばである。先人が開いてきたこの道を末永く未来に残すため、今後も、富士山とともに歩んだ歴史、文化を大切に守りつつ、これらを生かしたまちづくりにも努めていきたい。

富士山吉田口登山道

一口メモ

霊峰・富士 登拝の道「富士山吉田口登山道」

富士山本宮浅間大社に伝わる正治2年（1200年）の文書には、富士山吉田口登山道を含む三つのルートが記されている。

江戸時代中期以降、関東地方を中心に富士講が流行し信仰目的の登山者が増加。当時、江戸から吉田まで片道3日、吉田から富士の頂上までは往復で2日、全8日間の旅であった。

歴史ある富士山吉田口登山道（吉田ルート）は、現在全登山者の6割を超える人々に利用されている。



御山参詣～富士まで歩く講～のルート
※ルート上にある地名は一部省略しています

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」